

CASBEE[®]新潟 | 評価結果 |



■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築)2014年版
 ■使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.3.0)

1. 建物概要

建物名称	原信巻店	
建設地	新潟市西蒲区赤鎗字砂山339-2外15筆	
用途地域	第一種住居地域、準工業地域	
建物用途	物販店	
竣工年	2017年10月 竣工	
敷地面積	10,291.99 m ²	
建築面積	3,233.20 m ²	
延床面積	2,995.54 m ²	
階数	地上1階	
構造	S造	
評価の段階	竣工段階評価	
評価の実施日	2017年5月16日	

2. CASBEE新潟の評価結果

	A	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{51.7}{32.9} = 1.5$
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★		

3. 新潟市の重点項目の評価

重点項目	平均スコア	評価	項目	スコア
1. 長寿命化の取組み 建築物を長く、安心・安全に使い続けるために	3.7		バリアフリー計画	4.0
			維持管理	4.0
			設備の更新性	3.0
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産を守るために	3.0		耐震・免震	3.0
			信頼性	3.0
3. 大雨への取組み 大雨に強いまちづくりのために	3.0		雨水排水負荷低減	3.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	3.5		建物外皮の熱負荷抑制	4.0
			自然エネルギー利用	3.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	4.7		節水	4.0
			躯体材料以外でのリサイクル材の使用	5.0
			部材の再利用可能性向上への取組み	5.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな自然環境を次世代に引き継ぐために	1.5		生物環境の保全と創出	1.0
			敷地内温熱環境の向上	2.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の個性や魅力を活かしたまちづくりのために	3.0		まちなみ・景観への配慮	3.0
			地域性への配慮、快適性の向上	3.0

4. 新潟市の重点項目の配慮事項

長寿命化の取組み
 バリアフリー法誘導化基準を満足する施設として、たくさんの方からご利用頂けるよう、また親しみのある施設づくりに配慮しております。

資源循環の取組み
 節水により水資源の保護、リサイクル材の利用等で環境へ配慮しております。

CASBEE[®]新潟

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	原信巻店	階数	地上1階
建設地	新潟市西蒲区赤館字砂山339-2外1	構造	S造
用途地域	第一種住居地域、準工業地域	平均居住人員	0人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	物販店	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2017年10月 竣工	評価の実施日	2017年5月16日
敷地面積	10,292 m ²	作成者	高桑渉
建築面積	3,233 m ²	確認日	2017年5月16日
延床面積	2,996 m ²	確認者	高桑渉



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (368 kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 66% (243 kg-CO₂/年・m²)

③上記+②以外の 66% (243 kg-CO₂/年・m²)

④上記+ 66% (243 kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.2

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.7

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 設計上の配慮事項		その他
総合 近隣住民の皆様、お客様に喜ばれる店舗づくりを目標とした。建築物移動等円滑化基準に対応し、安全にも配慮した親しみのある施設となるよう計画した。		建物内は全面禁煙とし、またレストスペースとしてカフェを設け、お客様にとって安全・安心・快適に施設を利用できるように配慮しました。
Q1 室内環境 シックハウスに配慮した計画とした。また、設備機器等の更新性に配慮しました。	Q2 サービス性能 防汚性、メンテナンス性に優れた材料の選定。業務に必要な機器の修繕ルートの確保しました。	Q3 室外環境(敷地内) 敷地境界は緑化を心がけ、多様な種類の樹木をバランスよく配置しました。
LR1 エネルギー 高効率照明器具、高効率空調機の採用を行いました。照度計画、空調計画によりエネルギーを削減した建築計画を目指します。	LR2 資源・マテリアル リサイクル資源の利用。構造躯体と仕上げ材は容易に分離できる仕様としました。	LR3 敷地外環境 騒音、光害の低減に努めます。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される